



第73回 日本PTA 全国研究大会
第81回 日本PTA 東海北陸ブロック研究大会

石川大会

「サステナブルな未来づくりのために」
～ 創造と協働を 石川から ～

令和7年8月22～23日に日本PTA全国研究大会石川大会へ参加してまいりました。

先ずは大会に先立ちまして、令和6年1月1日に発生した能登半島地震や同年9月22～24日まで続いた豪雨被害において、被災されました皆様におかれましては哀悼の意を表しますとともに心よりお見舞い申し上げます。

まだまだ復興の途中ではありますが、そんな大変な時ににも関わらず、今回の石川大会開催へ向けて活動継続されてきた石川県PTA連合会泉会長並びに大会実行委員長の宇田様を初めと致します。石川県PTA連合会会員の皆様、大変お疲れ様でございました。大会の開催については意見の分かれるところであったと思われませんが、何よりも震災や豪雨被害で沢山の支援に尽力してくれた日本PTAや全国の仲間たちの支援に励まされ、そのご恩を大会を開催することで、返したいとの思いに感動致しました。そこに至るまでのプロセスは必ず子どもたちにも伝わっていて、ウチのお父さん・お母さんPTAの全国大会があって大変・大変って言うけど顔は楽しそうにしながら活動しているよ。って感じてくれれば、子どもながらにPTAって凄いな。PTAって、僕たち・私たちのためにやっているんだよね。自分たちも大人になって子どもが出来たらPTAをやってみたいと思ってくれると恩送りの精神につながっていくのかって思っています。※大会の開催に至るまでの経緯については、昨年の川崎大会において宇田大会実行委員長の魂のスピーチが全てを物語っておりました。気になる方下のリンクからご確認下さい。

<https://youtu.be/hnnS2y4-SLg>

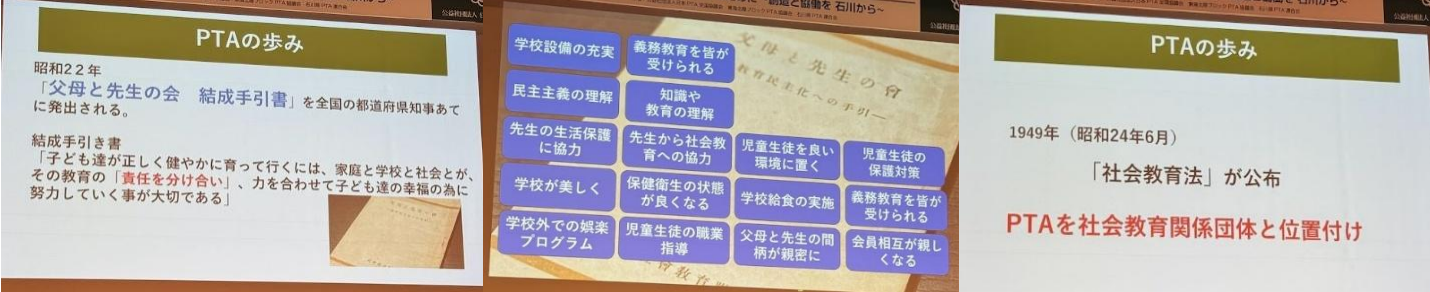
そんな、冒頭のプロローグから始まった。石川大会では、初日に特別第1分科会のサステナブルなPTA活動を構築するために ～今、改めて、PTAの存在意義を問う～ へ参加してまいりました。

【課題背景】

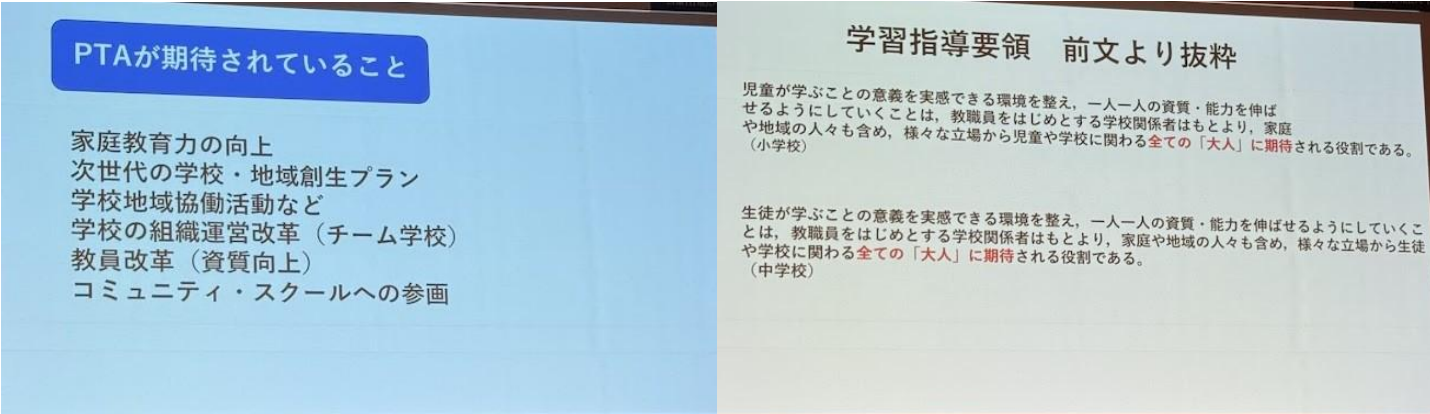
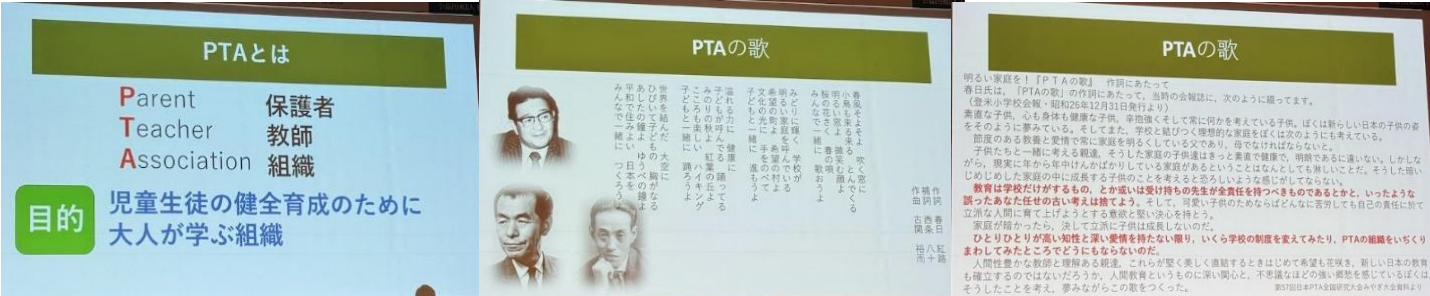
新型コロナウイルスにより活動自粛が続きようやく約4年ぶりに復活したPTA活動では今まで、くすぶっていたPTAの諸問題が改めて浮き彫りにされました。この時代のうねりの中で改めて、PTAについて学びなおすキッカケとなったのではないのでしょうか。PTAの存在意義や組織の在り方・活動の在り方について全国的に議論が交わされています。しかしながら一部ではSNS等にみられる一方的な批判的な意見が多く見られており、そんな今だからこそ、当事者達が率先してこの問題に真摯に取り組むことが大事なのではないのでしょうか。

そんな時代背景を受けて、①PTA活動の意義とは過去・現在・未来

②本音で語る『PTAは必要か・なぜ必要か』 ③持続可能な組織や活動のあり方とは
の3本のテーマを元に元日本PTA全国協議会会長の東川勝哉氏を講師に迎え第1部では講演いただき
第2部ではコーディネーターとしてその手腕を発揮していただきました。第2部構成では、
現日本PTA全国協議会会長の太田啓介氏・石川県教育総合研修センター所長の金子俊一様・前金沢市立
城南中学校PTA会長の南野弘一様をパネリストとして、その豊富な経験談をお聞かせいただきました。

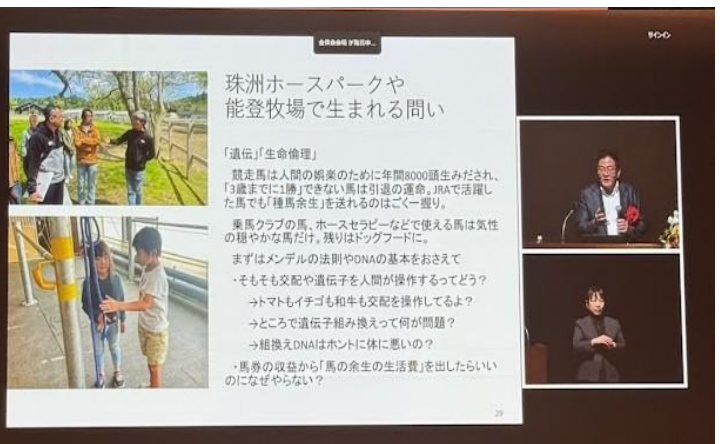


そもそも、義務教育とはこどもが等しく教育を受けられることを義務化した事かと思っておりましたが、
明確には「保護者が子供に教育を受ける環境を整えること」義務としたものであるということをはじめて、
知りました。お恥ずかしい限りですが義務教育の定義すら勘違い野郎していた私なのでした。（汗）
戦後の教育を憂い始まったGHQ主導のPTAではありましたが、構成の主軸においては純粋に日本人が
携わっており、その後70年以上にも及ぶPTAの基盤が構築されていきました。それが、「父母と先生の会
結成手引書」です。そこには「子ども達が正しく健やかに育っていくには、家庭と学校と社会とが、その
教育の「責任を分け合い」、力を合わせて子ども達の幸福の為に努力していく事が大切である。」
とあります。まさに学校側だけに教育をお任せしすぎている感は否めませんでした。私たちも保護者として
PTAの目的である。「児童生徒の健全育成のために大人が学ぶ組織」として仲間達と議論を重ね、今後の
活動において沢山の諸問題が山積してはおりますが、一つ一つ丁寧に解決していきたいと思いました。
また、今回の講和で初めて知った「PTAの歌」に込められたメッセージを理解したらこの歌を疎かにしては
いけない。しっかりと歌い・語り続けなければならないと改めて感じました。





大会2日目では、同じ会場にて、オープニングイベントして金沢子どもはしご登り教室に通う子ども達が300年の歴史を受け継ぐ「加賀とびはしご登り」を披露してくれました。このはしご登りは江戸時代に火消し隊が火災現場において高いはしごに登り頂上から火事の状況や風向き、建物の状況を確認め消火活動の方針決めたのが始まりとされていて、このはしご登りを最初に行ったのが「加賀飛び」とされており、日本のはしご登りの元祖と言われているそうです。子どもたちも日々の練習の成果を惜しみなく披露してくれて、とても誇らしげでした。披露してくれた技は数種類でしたが、全部で27種類あるそうです。また関東では「はしご乗り」と言い我が茨城県では水戸市や竜ヶ崎市でお正月の消防出初式などで披露されています。



その後、石川県副知事の浅野大介氏による講演では、「能登の創造的復興と学びの環境」～学習環境の魅力化あってこそその復興～と題して講話いただきました。浅野氏は東京大学卒業後、経済産業省に入省してから、数々のプロジェクトを立ち上げられました。中でも、IT端末機の一人一台を活用した。「未来の教室」や「GIGAスクール構想」や部活動の地域移行などにも関わってこられたそうです。その後2024年7月に石川県知事の馳浩之氏にその手腕を買われ石川県副知事に就任されたそうです。今回は復興がテーマであり「石川県創造的復興プラン」として、①災害に強い地域づくり ②特色ある生業（なりわい）の再建 ③暮らしのコミュニティの再建 ④誰もが安全・安心・に暮らし、学ぶことができる環境・地域づくり として、独創的かつ人にやさしく・人に寄り添った内容で、浅野氏の人柄が伝わってくる素晴らしい講演内容でした。

ちなみに、今回のメインフォーラムは各分科会会場をネットで繋ぎオンタイム配信するといった初の試みでした。今後はこの経験を活かして全国のPTA会員が誰でもネット参加出来る様な仕組みになっていくと思われます。とは言え、自分はこのリアルな環境での空気感が好きなので次回の奈良大会にもリアル参加していきたいと思いました。まだ体験されてない方も是非一度足を運んでみては如何でしょうか。



最後は表彰セレモニーとして宇田大会実行委員長に日本PTA全国協議会会長の太田氏より感謝状の授与が行われ、その後に全国研究大会旗の引継ぎ式を行った後に奈良県PTA協議会さん渾身のPRタイムが華やかに行われました。PR動画がについては下記のアドレスを要チェックです。

<https://youtu.be/vEqJBe809PY>

今回の石川大会では1泊2日の旅程だったので、観光が出来なかったのは残念でした。個人的には能登半島の現在の復興状況を見て回り、自分たちに出来ることがあるかどうかを見極めたかったです。

次回の第74回日本PTA全国研究大会奈良大会は令和8年度8月21・22日に奈良県各地で開催ですよ～

【大会スローガン】

建国の地 大和からの発信

PTAでつながるコンヴィヴィアリティな「わ」

～挑戦するなら今シカない～

